

島根県立大学短期大学部松江キャンパス広報

松江キャンパス ニュース

The University of
Shimane Junior College

2015

vol. 8

学科関連行事

公開講座

TOPICS

特集 学科の素顔

松江キャンパスには、健康栄養学科、保育学科、総合文化学科の3つの学科があり、学生たちはそれぞれの専門領域で学んでいます。日々の学びではキャンパス内はもちろん、時には外に飛び出して活動の場を広げます。今回は、そんな学生たちの素顔を集めました。

健康栄養学科

短大生活について



「短大での挑戦」

健康栄養学科 2年 中田真佑

私は、県短に入学して様々なことに挑戦しています。その中の一つに学友会があります。私は学友会に入り、会長を務めました。会長の仕事は物事がスムーズに進むよう、役員に指示を与えることです。学友会では自分達でやることを決め、何か問題が起きたときの責任は自分達にあります。最初のうちは役員全員で協力し合うことが難しく、いつも成功するの不安ばかりでした。学校祭である飛鳥祭の開催や檸檬という学友誌の作成が近付くと、学友会みんなでしなければならないことがたくさんありました。飛鳥祭のスケジュールや、檸檬作成手順を、急に何が起きても対処できるように何度も確認し合いました。学友会最後の大きな仕事である球技大会でも、当日の動きの確認や誰が何の役割をするのかなど、事前準備を怠らないようにしました。その成果のおかげで球技大会を無事成功させることができ、学生の皆さんに

楽しかったと言ってもらえたことで、やって良かったと思えました。

学友会会長として過ごした一年間はあっという間に過ぎました。引継ぎが終わった後の達成感はいまだに一番大きかったです。一人でやるのではなく、みんなで協力することで達成できることがある。助けが必要な時には助けてくれる仲間がいる。学友会で学んだことはたくさんあり、感謝しています。学友会のおかげで私は成長できました。

また、県短ではかけがえのない友達ができました。栄養士の勉強だけでなく、島根のこと、人との付き合い方など県短でしか体験できない様々なことを学び、毎日が充実し、とても楽しいです。



「学生生活で得たこと」

健康栄養学科 2年 山根千春

私は、島根県立大学短期大学部松江キャンパスに入学して、私自身が学びたいと思っていた栄養についての専門的な内容を学ぶことができたり、寮生活を通して集団生活の中でのマナーやコミュニケーションの大切さにも気づくことができました。

1年次では、実験や講義が多く、不安やわからないことも多くありました。しかし、わからないことを友人と相談したり、先生方に質問したりすることで理解できたり、自分で計画を立てて効率良くするためにはどうしたらよいか、と考えることができました。

2年次では、講義数は1年次よりも少ないのですが、1年次の基礎的な内容をふまえ、応用的な内容に発展するので1年次のレポートや課題の一つひとつが大切であると実感しました。また、校外実務実習もあり、実際に現場を体験することで衛生管理や栄養指導などについて深く学ぶことができ、貴重な体験ができました。

また寮生活では、寮生はほぼ毎日一緒に生活しているのも、家族のような存在であり、楽しくご飯を食べたり、悩み事を相談したりなど多くの思い出ができました。寮では2人部屋なので気を遣うときもありますが、相手のことを思いやって行動することや人と会った時にはあいさつをするといった、当たり前のマナーを以前よりもしっかりとできるようになったと思います。

この大学生活で得たものは多く、2年という短い間でしたが、充実した日々を過ごすことができました。この経験をこれからも活かしていきたいです。



「授業・友人・先生との関わりでみつけた夢」

健康栄養学科 2年 友塚晶子

私はこの大学に在籍し二年がたとうとしています。入学するまで足を踏み入れたことがなく緊張していた当時は思い出します。私が属する健康栄養学科は、履修する科目が選択より必修が多く、まるで高校のようにクラスの皆とほとんど同じ授業を受けます。そのため非常に関わりが深いため仲がよく、緊張していた自分が今では嘘のようです。健康栄養学科ということもあり、調理実習や解剖、食品学、調理学など特色ある科目も並んでいます。調理実習では本格的な和食を学んだり、授業の一環として100食の給食を提供したりしています。一年から学ぶ授業は二年までの授業に関わり、日々授業の積み重ねが今の私

たちの糧になっています。夜遅くまで課題に追われることもあります。テストの勉強では、忘れていたことや理解の出ていない授業内容についてもう一度復習して、時には、友人と教えあっています。さらに分からないところは先生に尋ね、理解を深めてきました。大学で学ぶ教科は、興味のある内容のため勉強することにそこまで負担を感じません。不思議と分かれば分かるほど楽しくなっている自分がいます。さらに夏休みには、校外実習を行い実際の職場に入り学びました。私の中でこの経験が出来たことが非常に印象的で大学で学んだことと働く社会で実際に行われていることがつながった印象をもち非常に良い経験が出来ました。この二年、授業も友人との時間も先生との関わりもかけがえのない時間になりました。具体的な将来の夢というのも見つかりこの大学で生活できよかったと思っています。

2年生:ゼミ生活

保育学科では2年次になると7つの研究室に分かれ、卒業研究を進めていきます。先生方の個性と学生のアイデアや興味関心のつまった卒業テーマが相互に結びつき、1年間の集大成として卒業研究発表会を迎えます。今回は7分野の研究室での学びどころについて、学生目線で紹介してもらいたと思います。



■教育心理研究室

指導教員：准教授 飯塚 由美
私達は、地域交流や食育活動など3つのグループが様々なテーマで研究しているため、互いに意見し合いながら日々卒業研究に取り組んでいます。自分達で計画を立て進めていく中で先を見通して進めていく力や文章を読み込む力がついたと思います。

中で先を見通して進めていく力や文章を読み込む力がついたと思います。



■体育研究室

指導教員：教授 岸本 強
おいしいものには目がない岸本研究室♥卒業研究を始める前に…まずは、おいしいスイーツをたくさん食べて、たくさん話す!もちろん食べて話すだけではなく、腹ごしらえをしてから、子どもの運動に関する実践的な内容、指導方法を中心に真面目に研究をしています!保育実践に活かせる内容も多く、将来必ず役に立ちます。



■保育学研究室

指導教員：准教授 小山 優子
私たちの研究室は、保育に関するいろいろな事柄を幅広く研究しています。今年は、劇団について、サンタクロースについて、絵本の中の幸福感についてを、熱心に指導をして下さる先生の元、楽しく研究しています!!研究に没頭し、楽しく、でもやるときはやるがもっとうの研究室です!



■美術工芸研究室

指導教員：准教授 福井 一尊
造形活動に触れ、楽しみながら研究しています!sson研♡時に学外に出かけたり、ハロウィンパーティをしたり、リフレッシュも全力で!今年は絵本や玩具、粘土について研究しています!子どもにとって身近な物を作ることのできる、素敵な研究室です(^o^)

子どもにとって身近な物を作ることのできる、素敵な研究室です(^o^)



■児童家庭福祉研究室

指導教員：講師 藤原 映久
和やかばくばくてるちゃん研(´∀`)居心地の良い藤原先生の研究室でジブリオルゴールをBGMに、時には休憩をかねて手作りしてる's kitchenをみんなで楽しみながら、バリアフリー絵本、親子関係、自閉症、園内支援体勢など福祉の分野を中心に研究をしています!

和やかばくばくてるちゃん研(´∀`)居心地の良い藤原先生の研究室でジブリオルゴールをBGMに、時には休憩をかねて手作りしてる's kitchenをみんなで楽しみながら、バリアフリー絵本、親子関係、自閉症、園内支援体勢など福祉の分野を中心に研究をしています!



■教育学研究室

指導教員：講師 矢島 毅昌
矢島研究室では映像検討会をしたり、文献を読み込み研究を進めています。全員が穏やかな雰囲気です。自由に言いたいことが言えたりもします。アロマで部屋がとてもしついで、いつもリラックスして研究が進められています。

いつもリラックスして研究が進められています。



■音楽研究室

指導教員：講師 梶間 奈保
私達はミュージカル、ピアノの連弾、文献研究の3つにわかれて、おちゃめな梶間先生とともに楽しく真面目に活動しています!音楽の専門的な知識や技術が必要なお仕事もあり大変ですが、たくさんの音楽に囲まれて研究ができるステキな環境です!
にぎやかで 個性あふれる 大食漢

たくさんの音楽に囲まれて研究ができるステキな環境です!
にぎやかで 個性あふれる 大食漢

1年生:1年を振り返って

保育学科1年 景山恵利子・佐々木悠香・柳楽 要子

(1)入学して気づいた保育学科で学ぶ面白さ

子どもが好きという同じ気持ちを持った、保育所(園)・幼稚園の先生を目指す人達と生活できるため「こんな活動、子どもたち好きだよね」と子どもたちのことを考え、話しながら笑顔で活動できます。実践発表では互いにほめ合い、アドバイスし合い、保育学科みんなで高めていきます。保育で色々な種類の氷鬼をみんなで楽しんでいます。その他にも様々な授業で子どもたちの好きな活動を体験して学び、その中で知らなかった遊びや絵本、手遊びに出会うことができます。保育学科では、友達、先輩、先生方と関わる機会も多く、保育者として大切なことである笑顔で楽しく学んでいます。

(2)1年間で印象に残った出来事

授業内では「ほいくまつり」の準備をする「児童文化」の授業を通して、上級生との団結力を培い、一体となって第41回ほいくまつりを成功させることができました。「社会的擁護」の授業では班ごとに児童福祉施設について調べ、実際に施設訪問をしたことを踏まえ、スライドを作り発表して、学習を深めました。その他にも「音楽」の授業でペーパーサートを、「美術」の授業でお面を班ごとで作って発表を楽しみました。授業外では、飛鳥祭で保育学科の1年生みんなで準備をし模擬店を出しました。また個人でボランティア活動に参加し実際の保育の場でたくさんのことを経験したことも印象に残っています。

(3)来年度に向けて

短大は2年という限られた時間しかありません。平成27年度は、短大生最後の1年となるので勉強にサークル、部活、バイト、友達と過ごし時間など1つ1つのことに全力で取り組み、充実した学生生活を送りたいです。また、社会に出る一歩手前なので責任と自覚を持った行動をすること、自分で体調管理を行うことを心がけていこうと思います。そして球技大会やほいくまつりの活動を通して保育学科みんなとの絆を深め思い出を作っていきたいです。

英語文化系 2年 神庭真捺

文化資源学系 2年 金山夏美

9月4日～11日まで、スイス、フランスに行ってきました♡

スイスと日本の国交樹立150周年を記念して、スイスのローザンヌで開かれた、ひろ着物学院主催の着物ショーに参加させていただきました。観客席は満員で緊張しましたが、お客さんがみんな喜んでいたので嬉しかったです。



スイスの後は、フランスのパリに行って観光名所を散策しました。私たちは、ガイドブックを持たずに、地図と自分たちのフィーリングでパリを歩きました(苦笑)

エッフェル塔や凱旋門を生で見る事ができたのは、感無量でした。また、ルーブル美術館では、モナリザやミロのヴィーナスに感動しました!

あっという間の9日間でしたが、自分の人生においてとても貴重な経験ができたので、これを生かしてまたいろいろな国に行きたいと思いました。



スイスは、とても自然豊かで、建物も綺麗でした。チーズが有名で、現地で食べたチーズフォンデュは格別でした!

遠くへ行ってみる。

地元でやってみる。

近場を探検してみる。

さまざまな伝統や文化に触れることができる総合文化学科。キャンパスの「内」だけでなく、「外」にも飛び出します。

日本語文化系 2年 安本智美

私は鳥取県米子市で活動している合唱団「コール凛-Ring-」に所属しています。

コール凛は10代後半～40代のメンバー、約15名の混声合唱団です。皆さん歌うことが大好きで明るく、毎回の練習ではおしゃべりが絶えません。また、幅広い年齢層の方が参加されており、学校生活の悩みや将来に関して相談に乗ってくださるので、自分自身の視野が広がりました。さらに、様々な立場の人と一緒に活動することでコミュニケーション能力が鍛えられ、自発的に動き、発言する力が身に付いたと感じています。

歌が好きなそのあなた!

私たちと一緒に楽しく歌ってみませんか。



日本語文化系 2年 三島悠希

「DOOR」は様々な職業・年代の人が集まる本屋。こだわりの本が並んでおり、本棚には総合文化学科の学生が作成した文化情報誌『のんびり雲』も。

ゆっくりとお茶を飲みながら、お客さん同士で話が始まり、ついつい長居してしまふ。そんな不思議な空間は、「ものづくり」をしている人が多く訪れます。それぞれ人にこだわりや、思い、価値観があります。それらを直接「生の声」としてたくさん聞くことで、いつも、新しい「学び」があります。



DOOR
鳥根県松江市上乃木1-22-22
OPEN: 13:00-18:00
定休日: 月曜日・金曜日
TEL: 0852-26-7846

EDITOR'S NOTE

In this issue, we introduced our life in Sobun.

I'd like to thank everybody who wrote an article: Manatsu, Natsumi and Satomi.

By the way, I used hand-operated Letterpress printing to make this editor's note.

Thank you for reading!

Japanese Language and Culture Course
second-year student, Mishima Yuki

公開講座

「健康栄養学講座：高齢者の食と健康」

健康栄養学科 教授 名和田清子

飽食の時代となり、日々忙しい毎日を送る中、食について考える機会が少なくなりました。一方、情報化社会となり、食に関する様々な情報が錯綜し、栄養の偏りや食生活の乱れに起因した肥満や生活習慣病の増加など、食に関わるさまざまな問題が山積しています。「食は健康の源」、健康栄養学科では、地域の皆様とともに、食と健康について考える機会をもつことを目的に、毎年、「健康栄養学講座」を開設しています。

少子高齢化した社会の中で、いつまでも健康で元気に暮らすことが私達の願いです。今年度は、サクセスフルエイジングを達成するためにはどのような食生活が役に立つのか考えることを目的に、「健康栄養学講座：高齢者の食と健康」を開設しました。第1回目の講座では、「健康の現状と課題」について、第2回目の講座で、「からだの仕組みと病気」について、そして、第3回目、4回目の講座では、高齢化に対応した地産地消の本学での取り組み、「西条柿を用いた食品開発」「しまね和牛の食味研究」について、最終回では、「島根県の食材を使った体に優しいメニュー」で、調理実習を行いました。今年度はこの講座を延104名の多数の方に受講頂きました。

来年度もこの講座を開講する予定です。ぜひ、たくさんの方に受講頂き、この島根の地で、皆様とともに、健康長寿日本一を目指したいと願っております。



公立大学法人島根県立大学
マスコットキャラクター
オロリン

「子どもの困った行動に対処する養護・
保育のスキルアップ講座：コモンセンス・ペアレンティング」

保育学科 講師 藤原映久

5名という少人数ではありましたが、学童保育、幼児教育、相談援助などを行っている専門職の方々に加えて、子育て真っ最中のお母さんも交えながら、コモンセンス・ペアレンティング(CSP)を学びました。CSPはアメリカ発の子育て支援プログラムです。具体的には、子どもにわかりやすく伝える方法、効果的な褒め方、子どもの問題行動への対処方法、感情のコントロール方法などを学びます。「子どもの困った行動に対処する」と銘打っていますが、この講座は子どもの養育に関わる立場であるならば、誰が学んでも役に立つ子育てのスキルに関する勉強会です。

毎回学んだ内容をロールプレイで練習するとともに、その回で学んだ内容を職場や家庭で実践することが宿題としてだされます。このような具体的、実践的で参加型の学習方法を採用していることもCSPの特徴です。ロールプレイはちょっと恥ずかしくて、宿題も少し大変です。しかし、ロールプレイを行って、宿題を報告しあうことで、参加者同士の心の距離はぐっと縮まって、学びが楽しくなります。今回の講座も和気あいあいとした雰囲気の中で8回を終えることができました。

今の時代、人権意識の高まりとともに、子どもの養育に関わる大人には、子どもへの気持ち、養育スキルともに高い水準が求められます。特に保育士をはじめとした専門職はそうです。これからも継続的にこの講座を開講して、子どもの養護・保育に関わる方々を応援していきたいと考えています。



「椿の道読書会」

松江キャンパス図書館 司書 北井由香

この講座では、様々なジャンルから毎回1冊の本を選び、その本についての感想や考えを述べ合い、著者についても勉強をします。講座は、全部で8回開講し、その他に番外編として学生図書委員との合同読書会も2回開きました。

合同読書会での本のテーマは、学生たちが選んだ東野圭吾の「手紙」、筒井康隆の「愛のひだりがわ」です。学生と受講者の方々とは、かなりの年齢差があるので、学生たちは1回目こそ、遠慮していましたが、2回目では、積極的に自分たちの考えを言えるようになり、白熱した意見交換ができたように思います。年齢の差はあっても、その差に関係なく自由に意見が言い合えるのは、読書会ならではの楽しみです。

読書会は、一見すると、ただ本の感想を述べ合っている場だけのように思われるかもしれませんが、実は、本を通してその人自身の人生観や歩んできた道を語る場にもなっています。私の方が受講者の方々から学ぶことも多いこの講座ですが、受講者の方々からは、普段自分では、絶対に読まない本を読むことができる、作家についても知ることができる、他の方々の意見を聞くことで視野が広がるなど言っています。今後も引き続き開講が出来ればと考えています。



新任教員紹介



健康栄養学科 教授
酒元 誠治

平成26年の4月から、3年任期で赴任しました酒元誠治(さけもと せいじ)と申します。松江キャンパスの4年生大学への移行が予定通り進めば平成30年開学となりますから、野球でいえばそつなくこなして「クローザー」に引き継ぐ「セットアッパー」としての役割を果たすこととなります。

専門は主に食事調査から得られたデータを統計的な解析・評価手法を用いて、分野を問わず多大学連携で関わっています。教育に関しては、昭和の教育法に回帰して、実務経験を伝えます。社会貢献では、地域の人たちに喜んで貰えることを第一に、浜田市で介護予防に取り組みます。



保育学科 講師
梶間 奈保

一番左が梶間先生

こんにちは。平成26年4月に保育学科の教員として着任いたしました梶間と申します。専門は作曲と音楽認知が主ですが、音楽に関することすべてに興味があるといってもいいかもしれません。研究室は音楽棟にあり、常に学生さんのピアノ練習の音や歌声、吹奏楽や軽音部の楽器の音がBGMとして、私を取り巻いてくれています。

先日、研究室訪問をされた一人の高校生さんから「先生の好きな音楽はなんですか?」と聞かれ、言葉に詰まってしまいました。好きな音楽がないわけではなく、どの音楽も様々な視点に立つと音楽の価値観も変わってくるため、返答に悩みつつもそこが音楽の面白いところだと再認識したところ。本学の学生さんとの授業でも、音楽に対する反応や考え方が多種

多様であり、私自身ワクワクしながら授業を進めております。また初年度は、多くの先生方や地元の方にも支えていただきながら、音楽の可能性を探求できました。どうぞこれからもよろしくお願いいたします。



総合文化学科 講師
ダスティン・キッド

平成26年4月1日に総合文化学科の異文化理解の担当教員として着任したDustin Kiddと申します。発音は「ダスティン・キッド」ですので、くれぐれも発音を混ぜて某企業名で呼ばないようにしてください。15年間近く日本におりますが、こればかりは長年の悩みの種です。

以前からはこちらで非常勤講師として英語の授業を担当してきましたが、今年度からはこちらで講師を務めます。英語の授業も担当しますが、「アメリカ研究」や「比較文化入門」、そして島根の観光スポットを英語で案内する「観光フィールド・トリップ」や「文化とガイド」も担当します。

そもそもなぜ私は島根に来たかというと、私の母校であるセントラル・ワシントン大学は島根大学と姉妹校関係があって、島根大学で一年間の留学をしました。向こうで日本語を勉強していて、実は本学の教員が交換教授でいらっやったときも、その先生たちのもとで勉強しました。学生の頃に、本学の海外研修で来られた学生の手伝いもしたことがあり、結構前からここと縁があります。

みなさんと一緒に、たくさんの異文化交流を通して世界を見つめなおすきっかけを作っていきたいと思っています。よろしくお願いいたします!



総合文化学科 講師
杉 岳 志

平成26年4月に総合文化学科に着任いたしました杉と申します。日本史担当の教員として、「日本史入門」「古文書を読む」「松江の文化と歴史」「しまね歴史探訪」などの授業を担当しています。

専門分野は日本近世史と文化史です。「天変の文化史」をテーマに、江戸時代の人々は天変をどのように理解したのか、天変の社会的影響はいかなるものだったのか、また江戸時代に海外から入ってきた新しい天文学の知識はどのように受け止められたのかといった点を研究しています。

本学に着任するまでは、7年間にわたり、東京の大学図書館で古文書の整理や展示の企画、論文の書き方の指導などに従事していました。やりがいのある仕事ではありましたが、もっと教育に携わりたいと考えて新たな

機会を求め、縁あって本年より本学で教鞭をとっています。

松江には、今からちょうど10年前に来たことがあります。その時、いつかこのような歴史ある町で暮らしたいと思ったのですが、それが実現するとは思っていませんでした。このご縁を大切に、学生の皆さんに歴史の魅力を伝えていきたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

新任事務室職員紹介

平成26年4月の人事異動で3名、9月の人事異動で1名の新任職員が松江キャンパスに着任しました。

島根県庁から、「遊び心の中から、自由な発想が生まれ、自由な発想が良い結果につながる」をモットーにがんばる管理課長の岩本と、浜田キャンパスから、毎年家族と海外旅行に出かけ何もしない時間を大切にしている松崎主任が管理課へ、新規採用職員で「畑作業」を趣味にNHKの「趣味の園芸やさいの時間」をこよなく愛す教務学生課の中島主事の3名が4月に着任しました。

今年度、初めてとなる9月の人事異動では、浜田キャンパスから、笑顔を大切に、気軽に学生の皆さんと接し、相談しやすい存在でありたいという教務学生課の山本主事が着任しました。

今年度は、中島くんの「良い野菜は、良い土づくりから」を合い言葉に、学生の皆さんの土台となる良い土づくりに向けて頑張ります。学生の皆さんは、困ったことがあれば、気軽に事務室までお越し下さい。

また、現在、松江キャンパスでは、全学で取り組んでいるCOC事業と短期大学の4大化に取り組んでいます。教員の皆さんにもご協力いただき良い大学づくりに取り組んでいきたいと思ひます。



縁ラボ紹介

しまね地域共生センター開設！

平成25年度に文科省「地(知)の拠点整備事業(COC事業)」に採択され、平成26年4月に「しまね地域共生センター(しまね縁ラボ)」を開設しました。

2号館3Fにあるセンターからは図書館前のキャンパスフォーラムに集う学生の皆さんの元気な姿を眺めることもでき、大学の活気を感じられる素敵な場所です。

メンバーはセンター長を筆頭に、各学科の専門コーディネーター3名と事務職員です。

コーディネーターは、「地域と共に」をテーマに、地域志向の研究や授業を推進するため、各分野の専門性を活かして大学と地域をつなぐ活動をしています。授業で会ったときなどは、ぜひ気軽に声をかけてください。



SCHEDULE

平成27年度年間行事予定

* 予定変更の可能性もありますので事前にご確認ください。



CAMPUS LIFE

私のアメリカ‘新’発見 橋本祐未 (保育学科1年)

私は今回の研修で初めて海外に行き、たくさんの驚きがありました。

私が1番驚いたのが、アメリカの教会訪問です。研修の中で教会に行く日がありましたが、私は正直あまり興味を持ってませんでした。アメリカの教会は、日本の教会のミサよりもフォーマルな感じで、静かにお祈りをするイメージがあったからです。しかし、実際に教会に行ってみると、イメージとは全く逆で、ステージの上でバンドが演奏をし、それに合わせてみんなで歌を歌いました。とても楽しく、日本との文化の違いにびっくりしましたが、本当に貴重な経験になりました。

このようにアメリカでは私のイメージと違うことがたくさんありました。“食事が油っこい”や“海外は治安が悪い”などとマイナスなイメージも少しありました。しかし、食事はとてもおいしかったし、治安も悪いどころか町を歩いていると服や靴などを褒めてくれるなど、皆とてもフレンドリーで温かい気持ちになりました。

これらは実際に行ってみたら発見できたことです。きっと世界にはまだまだイメージとは違う素敵なことがたくさんあると思います。これからも様々なことに挑戦し、実際に体験して、たくさんの新しいことを発見していきたいです。



サークル・クラブ紹介

・吹奏楽部

(保育学科 1年) 宮崎杏夢

吹奏楽部～県短winds♪～です。現在は1年生30名で火曜日と金曜日に活動しています。吹奏楽部はできたばかりの部活で、部の運営や楽器の借用など、日々試行錯誤しながらではありますが、オープンキャンパスや飛鳥祭といった学内の行事での演奏に加え、医療施設での演奏活動もしています。また、クリスマスコンサートなどの季節の行事にあわせたコンサート企画をし、皆様に楽しんでいただける演奏ができるよう練習に励んでいます。



吹奏楽部は、総合文化学科・保育学科・健康栄養学科の各学科から個性的な部員が集まり吹奏楽の楽しさ、音楽の楽しさを共有しています。自分たちも演奏を聴いてくださる皆様も楽しむことができる演奏をすることが目標です。

私たちと一緒に楽しい音楽を追求し、吹奏楽部～県短winds♪～を創りあげていきませんか？見学も入部も大歓迎です。部員一同、素敵な出会いを楽しみにしています。

・フットサルサークル

(総合文化学科2年) 神庭 梢



私たちフットサルサークルは毎週火曜日の夜2時間の活動をしています。毎回活動に参加するのは10名前後です。人数が足りない時は、先輩に来てもらったり、最近では外部からサッカー選手に来てもらったりしています。活動メニューは、基礎練習をしてから試合という形です。現在の部員の中でフットサル経験者はいませんが、皆ワイワイと楽しく練習しています。フットサルが上手になる、だけではなく、フットサルをみんなで一緒に楽しむ、がサークルの目標です。

飛鳥祭 (大学祭)



島根県立大学短期大学部
松江キャンパス

〒690-0044 島根県松江市浜乃木七丁目24番2号

TEL 0852-26-5525 FAX 0852-21-8150

発行：島根県立大学短期大学部松江キャンパス メディア・図書館委員会

発行日：2015年3月13日

◎表紙写真：総合文化学科 教授 大塚 茂